

(資料)

REFRANERO ESPAÑOL (17)

スペインの諺辞典

Bernardo M. Villasán*

新 井 藍 子

750. Lo mismo es a cuestras que al hombro.

背負うも 肩にかつぐも同じ

- バロス：やり方はどうであれ、大事な事は実行することである。
- 実際に役に立たない空理空論より、成し遂げることが大切であるという。日本には次のような類似のことわざがある；“量の上の水練”，“机上の空論”，“量の上の陣立”など、滔々と理論を述べたり，方法に詳しくても実際の経験に乏しいために役に立たないものをたとえている。

751. Lo mucho se gasta y lo poco basta.

たくさんは尽きる 少々は足りる

- バロス：なぜなら，少ししかなければ大切に使うから。類似のことわざには“Más vale plaza cara que despensa barata. 高い市場は，安い貯蔵室に勝る”がある。
- コレアス：いい加減に使うか，きちんと使うかの違いである。
- われわれの日常生活に実際に起っていることを述べたことわざである。たくさんあれば，ばっばと消費するし，少なければ，一生懸命考えて大切に使う。反省させられる

* Edición y revisión

おしえである。日本には、わずかな金だからといって粗末にするなという“一銭を笑う者は一銭に泣く”というおしえがある。また、たまの大きな出費より毎日の細かい出費に心を配ることが大切であるという“大費（おおづか）いより小費（こづか）い”がある。

- バロス諺集とコレアス諺集には、“lo mucho”と“lo poco”の対比のことわざが次のようにいくつかある；“Lo poco agrada y lo mucho enfada. 少々は楽しませるが、たくさんは不快にさせる”（たいていの場合、過剰な分量は煩わしいものである。—バロス）日本のことわざでも“楽は貧にあり”，“無いが極楽知らぬが仏”などともいう。“Lo poco espanta y lo mucho amansa. 少々は驚かせるが、たくさんは慣らす”（少々の不運は人をびっくりさせるが、段々それが大きく積み重なると慣れてくるものである。—コレアス）

“Lo poco hace deudor, y lo mucho, enemigo. 少々は負債者をつくるが、たくさんは敵をつくる”（小額なら返済するのに苦にはならないが、多額の負債を抱えている者は、強制的に返済しなければならぬという気持ちから、結局は借り主を憎むようになる。—コレアス）

“Lo poco mucho duró, y lo mucho se gastó. 少々（の金）は長い間もったけれど、たくさん（の金）はなくなった”

752. Lo olvidado, ni agradecido ni pagado.

忘れられた事は、感謝もされないし、払ってももらえない

- スバルビィ：受けた好意に対して常に知らないふりをする人がいるものである。それは、恩人が以前の彼と同じような境遇に置かれた場合に恩返しをしないと、或いは、借りた金を返済しないとといったような事である。そういう忘恩の人を非難していることわざである。
- たいてい、人は受けた恩は忘れやすいが、人にして上げた事は忘れないものである。また、人からしてもらえなかった事はいつまでもその人を恨んで覚えている。そういう厄介なものが人間である。同義に“喉元過ぎれば熱さを忘れる”があるし、もっと酷い人になると、“後足で砂をかける”がある。

753. Lo que con el ojo se ve, con el dedo se adivina.

目で見えるものを、言い当てる

- 同意義で次のようなバリエーションがある；“Lo que con el ojo veo, lo adivino con el dedo.”，“Lo que con los ojos miro, con el dedo lo adivino.”，“Lo que con el ojo veo, con el dedo lo señalo. 目で見えるものを、指し示す”コバルビアスの宝典には“Lo que con el ojo se ve con el dedo se adivina.”(自明の真理やわかりきった事を予言する。—コバルビアス)が収載されている。バロスの解釈によると、われわれにとって明白なことは、誰にも否定できないし、それをそのまま正しく言い当てたとしても自慢するには及ばないの意。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 62 章、自分の長男の願いが何であるかと、あまりにもわかりきったことを聞いてしまったと騎士が感想をもらす，“-Eso es-dijo el caballero- : lo que veo por los ojos, con el dedo lo señalo. <なるほど>と、騎士。<己が掌(たなごころ)を指すごとし、とは正にこのことだ>”(続編三、高橋正武訳)

754. Lo que con ira se hace, desplace.

怒って行われることは、人を不快にする

- 人は怒っている時は、たいてい分別を失っている、分別のない言動は人をとても不快にする。怒りにかられた言葉を吐いたり、ふるまいをしたりして後で後悔をしてもとり返しつかない場合がしばしばある。徳川家康の遺訓にあることばに“怒りは敵と思え”(故事ことわざ活用辞典)がある。怒りは自分の判断に冷静さを欠き、人の恨みや反感を招くようにもなるので、怒りは身を滅ぼす敵と思って慎むことが大切であると戒めている。同義のことわざには“怒りは愚かな者の胸に宿る”がある。

755. Lo que con unos se pierde, con otros se gana.

勝ったり 負けたり

- バロス：世間では人がどのように生きているかを教えてくれることわざである、ある時は、寛容な心で人に譲ったり、また、ある時はチャンスを狙って人を利用したりもする。

- “勝負は時の運”（太平記），“負けるも勝つも運次第”と言い、勝つも負けるもその時の運、不運によるものであって、必ずしも実力によって決まるものではないと日本の格言はおしえている。

756. Lo que de noche se hace, a la mañana parece.

夜したことが 朝には現われる

- スバルビィ：夜の暗闇に乗じて悪いことをすべきではない、遅かれ早かれいつかは発見されるだろうから。或いは、その日のうちにすべき仕事を翌日までたくさん残さないようにと戒めている。
- バロス：自分が犯した過失は、自分自身で苦しまなければならない、なぜなら、どんなに気をつけてしたつもりでいても、終いには皆の知るところとなるであろうから。
- “Lo que de noche se hace, de día parece”（コレアス諺集、スバルビィ諺辞典）とも言う。自らが犯した悪事の報いは、自分自身で受けなければならないという意味のことわざには“自業自得”，“身から出た錆”，“悪事身に返る”などがある。

757. Lo que Dios da, llevarse ha.

神がお与えになるものは、受けとらなければならぬ

- スバルビィ：常にわれわれのためを思ってくださいる神によって送られたものであると考えて、苦勞でさえも良しとしなければならない。
- バロス：人生がもたらす試練を避けようとはせずに、それに耐えていかなければならないとおしえている。
- “人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し”（東照宮御遺訓）と同義のことわざで、人間の一生というものは、長い道のりを困難に耐えて、着実に努力して歩いていかなければならないということ。

758. Lo que el niño oyó en el hogar, eso dice en el portal.

家で聞いたことを、子供は戸口で話す

- バロス：子供というものは、家で大人が話す事を無邪気にくり返すものなので、子供の前では重要な事を話さないように気をつけなければならぬ。
- 日本には“子は親を映す鏡”とか“子は親に似る”ということわざもあるので、子供

の前ではふるまいに気をつけなければならない。すぐに親の人柄、教養がわかってしまう。

759. Lo que en la leche se mama, en la mortaja se derrama.

吸った乳を 死装束にまき散らす

- バロス：“Lo que con el capillo se toma y pega, con la mortaja se deja. 洗礼用
ずきんにこびりついたものを死装束に残していく”と同意義のことわざ。
- スバルビィ：良くて、悪くても幼少の頃に学んだ事は生涯つきまとう。
- スペインの類似の諺の“Lo que se aprende en la cuna, siempre dura.”は、“三つ子の魂百まで”とぴったり同じで、その他にも“雀百まで踊り忘れず”，“産屋（うぶや）の癖は八十まで治らぬ”などがある。幼児からの癖、性格、習慣などは年をとっても変わらないということ。

760. Lo que es bueno para el hígado, es malo para el bazo.

肝臓には良くて、脾臓には悪い

- バロス：ある事柄やある人にとって有益な方法及び解決法は、それ以外の事柄や人にとっては、有害であるということをととえて言う。
- つまり、“彼方（あちら）立てれば此方（こちら）が立たぬ”ということで、一方をよくしようとすれば他方が悪くなる、両方にとって都合のよいことはないの意で、日本の類似のことわざには、“あなたを祝えばこなたの怨み”，“右を踏めば左が上がる”，“出船によい風は入り船に悪い”などたくさんある。スペインの同義のことわざには，“Lo que es bueno para el vientre, no lo es para el diente. 腹に良くて、歯には悪い”がある。
- 例題：セレスティーナ第9幕、滔々と酒の効力について講釈するセレスティーナは、ことわざをもじって上等な酒は，“Así que con lo que sana el hígado enferman la bolsa. だから、肝臓にはいいが、財布には悪いのさ”（魔女セレスティナ、大島正訳）

761. Lo que está de Dios, a la mano se viene.

神の御手にあるものは、手元に届く

- バロス：正当なものであれば、方法はどうかであれ、いつかは手に入れることができる

ものである。

- スバルビィ：何かを欲しいと思っている人とか、或いは法に訴えたいと考えている人の自信がうかがえる格言である。
- “estar de Dios-pase lo que pase, que pase lo que tenga que pasar- 起るべくして起る、不可抗力だ” 類似のことわざには、“El hombre propone y Dios dispone. 人が考え、神が行う”がある。これにぴったりの日本のことわざは“人事を尽くして天命を待つ”であろうか。この世には人知、努力を超えたものがたくさんある、最後はただ神の意志に任せて平静な心境にあることが大切である。

762. Lo que has de dar al mur, dalo al gato, y sacarte ha de cuidados.

ネズミに上げるものは、ネコに上げよ、そうすれば心配しなくてすむ

- バロス：必要にせまられて上げるものは遅くならないように、また後で利益につながるように適切な時に、適切な人に上げなくてはならない。
- スバルビィ：どうしてもしなくてはならない事は、充分考えてから慎重にしなければならない。
- コレアス諺集には、次のようにユーモアのある後半の部分がついている、“Lo que has de dar al mur, dalo al gato, y quitarte ha de cuidado ; aunque más come un gato de una vez que un ratón en un mes. ; だけど一ヶ月にネズミが食べる量より一回ネコが食べる量のほうが多いけれど”
- 例題：ドン・キホーテ第二部 56 章，公爵の馬丁トシーロスがロドリゲスの娘と結婚したいと聞いたサンチョは，すかさず諺を口にして賛同する，“-Él hace muy bien-dijo a esta sazón Sancho Panza- ; porque lo que has de dar al mur, dalo al gato, y sacarte ha de cuidado. <それが賢いというこんだ>と，そのときサンチョ・パンサが言った。<いづれ鼠に食わずなら，いっそ手近な猫にやれ。気苦労，手数がはぶけらあ>”（続編三，高橋正武訳）

763. Lo que has de hacer hoy, no lo dejes para mañana.

今日しなければならぬ事は、明日まで延ばすな

- バロス：“Nunca dejes para mañana lo que puedas hacer hoy. 今日できる事は、明日まで延ばすな”と同じ意味。
- その日の仕事はその日にすませよ、明日はまた明日の仕事が待っているからということ。一日いちにちの仕事をきちんとかたづけていかないと後で收拾がつかなくなる。“早いのが一の芸”と言って仕事を手早く仕上げる者を称えることわざが日本にある。むろん、その反対のことわざもたくさんある。

764. Lo que la loba hace, al lobo le place.

妻の好きなことは、夫の喜び

- バロス：好みも性格も似ている仲むつまじい夫婦を謳うことわざ。
- 性格や趣味が互いに似ている夫婦を日本では、“似た者夫婦”という。また、一緒に長い間いる夫婦が互いに影響しあって似てくるということにもいう。スペインのことわざの直訳は、“メス狼がすることは、オス狼を喜ばせる”で、つまり“妻、女”が主体で、その後に“夫、男”が従うほほえましい風景であるが、日本の“亭主の好きな赤烏帽子（あかえぼし）”となると、封建的な亭主閥の夫、それも風変わりな夫に妻なり、家族が従い、同調しないわけにはいかないということになる。その他にも、非常識でも家長の言い分は通ることをたとえて“亭主の好きな赤鯛”とか“亭主が好きななら菰（こも）でも被れ”などという。

765. Lo que los ojos no ven, el corazón no lo desea.

目から遠ければ 心から遠い

- 死んだ人は、年月が経てばだんだん忘れ去られていく、また、親しかった人でも、離れて顔を見なくなるとしだいにその仲が疎遠になっていく。スペインのことわざと日本のそれとがびったり意味も表現も一致している。日本の類似のことわざは次のようにたくさんある；“去る者は日々に疎し”，“遠くなれば薄くなる”，“遠ざかるは縁の切れ目”など。スペインの同義のことわざは“Ojos que no ven, corazón que no siente. 目が見ないと、心は感じない”（バロス諺集）がある。また、嫌いな人の顔

を見なくてもすむようになれば、心は平静でいられるという “Lo que ojos no ven, corazón no quebranta. 目が見ないと、心は苦しまぬ” (コレアス諺集) がある。

766. Lo que no acaece en un año acontece en un rato.

一年間に起こらなかったことが つかの間に起こる

- “Lo que no acontece en un año, acontece en una hora. 一年間に起こらなかったことが、一時間におこる” ともいう。日本の諺の “天災（災害）は忘れた頃にやってくる” と同意義で、天災というものは、その恐ろしさを忘れた頃になると起こるものだから、ふだんから用心する心掛けが必要であると戒めている。また、天災に限らず、えてして災難、不幸は起こるとなると数珠つなぎにつきつぎとやって来るものだから、長い間何ごともなく無事平穩に過ごしてきたからといって、油断してはならないという意味もある。

767. Lo que no quieras para ti no lo quieras para tu prójimo.

汝が欲せざる所は 人に施す勿れ

- “Lo que no quieras para ti, no lo quieras para mí ; no lo quieras para otro. 汝が欲せざるものは、己れも欲せず；他者も欲せず” (コレアス諺集) ともいう。バロスによると、この諺のもとの意味は、新約聖書のルカによる福音書（6-31）、マタイによる福音書（7-12）に基づく。大勢の弟子とおびただしい民衆の前でイエスがお教えになられたあの有名な “敵を愛しなさい” の中の御言葉である，“Hagan ustedes con los demás como quieren que los demás hagan con ustedes. 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。” (ルカによる福音書、新約聖書、日本聖書協会)
- スペインの上記の見出しのことわざの直訳は論語の言葉そのままである。意味も同じで、自分が嫌なことは人も当然そのように思うであろうから、それを人にしてはならないと戒めている。同意義で “我が身を抓って人の痛さを知れ” ということわざもある。

768. Lo que no se comienza, nunca se acaba.

始まらないことは 決して終わらない

- バロス：強い意志と熱意があれば諸々の障害を克服できるにもかかわらず、新規のプ

プロジェクトに難点を見つけては反対する人々に対していう。

- スバルビィ：怠慢から逃れなさいと忠告している。最初の難関を突破することができるれば容易く目的を達することができるから。
- 日本には同意義でためになる諺がいくつかある；“始めが大事”，“始めよければ終わりよし”，“本の一分は末の一丈”など，いずれも何事も始めが大事であると教えている。また，どんなに大きな目標を掲げても，まず手近なところから始めて一歩一歩堅実に努力を重ねていけば，必ずその目標に到達できるという“千里の行も足下（そっか）より始まる”（老子），“百里の道も一歩から”，“大海の水も一滴から”，“高きに登るには卑（ひく）きよりす”（書経）など，いずれも貴重な教えである。

769. Lo que no se hace a la boda, no se hace a toda hora.

結婚式の日にしらないことは，いつまでもしない

- コレアス：するべき時に必要なことをきちんとしないと，後になってからでは尚更しない。
- バロス：どんな物事でも，最大限の努力を発揮できる時機というものがある，その時期を失うと後では同じような努力を何回もくり返せない。
- 類似のスペインの諺には，“Lo que no viene a la boda no viene a toda hora. 結婚式の日に来て来ないものは，いつまでも来ない”がある。バロスによると，好機がやってきたのにかうかとそれを外してしまうと，後でもう一度捕まえようと思ってとても難しいということ。史記の“時は得難くして失い易し”と同意義で，好機はめったに巡ってこないものであるし，油断しているとすぐに過ぎ去ってしまうものでもあるから外してはならないと戒めている。日本のことわざにもぴったり合ったことわざがいくつかある；“物には時節”，“事は時節”，“好機逸すべからず”など。

770. Lo que no se puede comprar con dinero no se ha de vender por dinero.

金で買えぬものは，金で売ることは出来ぬ

- コレアス：貴族の称号は金で買うことは出来ぬ，故に財産が欲しいからといって貴族は平民と結婚してその身分を汚してはならぬ。
- 貴族の身分をスペインでは，“sangre azul- 青い血”という。なぜ貴族階級を“青い

血”と呼ぶようになったかはイリバレン (El porqué de los dichos) が、次のように説明している； 1) 赤い血のように平民であれ、貴族であれ人間であれば必然的にたくさんの共通点があるにもかかわらず、どんなことにも平民とは同じでありたくないという虚栄心の強い貴族を嘲笑した言い方である。2) 労働に従事しない支配階級は白い肌に静脈が青く透きとって見えるところから、貴族階級をそう呼ぶようになった。また、西和中辞典 (小学館) によると、貴婦人たちは白い肌を引き立たせるためにブルーペンシルで静脈を描いていたそうである。他のヨーロッパの国々と同じようにスペインでも貴族と平民の差は歴然としていた。しかし、コレアスが言うように、零落した貴族は金持ちの平民と結婚することがしばしばあった。それにより、平民の血が混じると、いかにも貴族の血が汚されるように当時は考えられていたのであろう。それはコレアスのコメントにありありとうかがえる。

- 日本の諺の“何謀より金かし”は、門閥がよくても貧乏であるよりは、身分が低くても金かきするほどの資産家の方がよいという。“それがしより食うがし”ともいう。

771. Lo que poco cuesta, poco se aprecia.

骨の折れぬことは、軽んぜられる

- “costar”には、“(金額を)要する”，“(労力，時間を)要する”，の意味があるので、上記のことわざは“金がかからぬものは、軽んぜられる”とも訳せる。同意義のコレアス諺集には，“Lo que poco cuesta, poco se precia ; o poco se estima.”がある。言葉を変えていえば“Lo que mucho vale, mucho cuesta. 値打ちのあるものは、非常に高い”(或いは、“値打ちのある事は、骨が折れる”) 労力や時間、或いは金をかけないでたやすく手に入れたものは、人は粗末にするものである。また、骨を折らずに簡単に手にいれられるようなものには、価値のないものが多い。評価というものは、しばしば人がある事やある物にどれだけの力をつきこんだかによって決まる。“あぶく銭は身に付かぬ”というように、働かないで手に入れた金銭は、軽んぜられてすぐにつまらないことに使ってしまいなくなってしまう。
- 例題：ドン・キホーテ第一部 34 章、情人のロターリオに自分の全所有をいっぺんに渡してしまったので、かるがるしい女と見られるのではないかと心配する美しいカミーラは、諺を引用する，“-También se suele decir-dijo Camila-, que lo que cuesta poco se estima en menos. <けれどもね>と、カミーラ。<骨のおれないことは軽

んぜられるともいうわよ。> (正編三, 永田寛定訳)

772. Lo que te dijere el espejo no te lo dirán en concejo.

鏡が言うことを 人は言ってくれない

- バロス：人はわれわれの欠点を率直には言ってくれないものである。
- コバルビアスの宝典によると、鏡は真実の友のシンボルである、そういう真実の友に相談すると、われわれに本当のことを言ってくれる、そこからこういう諺が生まれた、“El buen amigo es espejo del hombre. よき友は、人の鏡である” 日本には次ぎのように理にかなったとてもよい格言がある、“人こそ人の鏡”，“人を鏡とせよ”などで、これらは“人の振り見て我が振り直せ”，“人の上見て我が身を思え”ということである。他人の言動のよしあしを見れば、自分の行いを反省するためのよい手本になるということを教えている。

773. Lo que una vez y una edad apetece, otra lo aborrece.

年々歳々 人の望みは移ろいやすし

- 年令によって、人は欲するもの、したい事など好みが変わってくる、特に、若い時と年寄りではその違いが顕著にあらわれてくるものである。スペインの諺の直訳は“ある時期に好んだ事を、ほかの時期では嫌悪する”あらゆる事には適切な時機があるが、一方では“Más vale tarde que nunca. 遅くてもしないよりまし”という諺がある。自分がしたいと思いついた時がちょうどふさわしい時機と考えるのが一番いいのではないだろうか。ただし、“年寄りの冷や水”，“年寄りの夜歩き”など高齢者に対する世間の目は冷たい。

774. Lo que uno no quiere, otro lo desea.

ある者が望まないことを、別の者は望む

- バロス：“Lo que uno desecha, otro lo ruega. ある者が捨てるものを、別の者はねだる”とも言う。人の性格、好みは多様であるから、ある者がいいと思うことでも、別の者はよくないと思ったりする。むろん、その反対もある。
- 人はそれぞれ違うということを理解しない者が世間には多い。自分の好きな物は、他人も好きだと思って、自分の好みを人に押しつけたり、自分の好みで人を判断したり

することをたとえて、日本のことわざは“我が好きを人に振る舞う”，“亭主の好きを客に出す”などという。

775. Lucen las galanas con los brazos de las malhadadas.

主役は 脇役の腕で 輝く

- バロス：他の者の労力で輝いている得な人々がいるものである。
- “Lozoya lleva el agua y Jarama tiene la fama. ロソヤ川が水をひき，ハラマ川が名をはせる”（他の人々の労力に負いながら，自分を鼻にかけるような者を咎めている—バロス）も同じ，上記の見出しのことわざの直訳は，“美人は，不運な女の腕で輝く”よく美人と醜女のふたり連れが歩いているが，美人は引き立て役の傍でいっそう輝く。
- この世は，“縁の下の力持ち”，“楽屋の声囁（か）らす”人と表に立つ人の両方から成り立っているということ。

776. Llagas (Las) duelen menos untadas.

傷口は 軟膏を塗らなければ 痛む

- バロス：心が傷ついていても，やさしい言葉や贈り物で気持ちが癒やされることをたとえている。
- コレアス諺集には，上記のことわざと共に“Llagas (Las) untadas duelen, mas no tanto.軟膏が塗ってある傷口は痛みはするが，それほどでもない”がある。コレアスによると，怒ったり，痛みを感じている人がやさしい言葉をかけられたり，道理を説かれたりして気持ちを和らげていることを意味する。傷ついている人に対する処方せんを説くことわざである。

777. Llama (La) llama adonde viene la llama.

炎は 炎をよぶ

- バロス：特に，たがいに愛しあっている者同士をいう。
- コレアス：“Llama la llama, adonde viene la llama ; o la llama llama adonde viene la llama. 寒い季節には，明かりは人を引きつけるものである；夜，山の中で道に迷った者は，牧人，或いは村の明かりに引きつけられる，海上では，船は陸の灯

台の明かりに引きつけられる。また、悪は悪を呼び、不正は不正を呼ぶ、愛は愛を呼ぶという意味にも応用できることわざである。

- コレアスのように解釈を拡げていくと “Dinero llama dinero. 金が金をよぶ” (筆者のスペインの諺辞典, 421 を参照), “El dinero se va al dinero, y el holgar al caballero. 金は金のところへ行き, 無為は紳士のところへ行く” などのことわざと同意義になる。

778. Llaves (Las) en la cinta y el perro en la cocina.

鍵はひもに 犬は台所に

- スバルビィ：本当は不注意なのに, 注意深い振りをするような人を咎めている。
- バロスの諺集には, 上記のことわざと共に “Llave en cinta hace buena a mí y a mi vecina. ひもにどうしてある鍵はわたしにも, 隣人にも良いことだ” (自分のものを守れるし, 隣人も盗む機会がなくなるから—バロス) がある。
- 注意深そうには見えるが, どこかスキのある人をたとえていうことわざ。

779. Llégate a los buenos, y serás uno de ellos.

寄らば大樹の陰

- バロス: “El que a buen árbol se arrima, buena sombra le cobija. 寄らば大樹の陰” (筆者のスペインの諺辞典, 462 を参照) と同意義の諺である。
- スペインの見出しのことわざの直訳は “上の人々に身を寄せなさい, そうすればそのうちにその一人になれるだろうから” である。二番目のことわざは日本のことわざどおり, 表現も意味もぴったり同じである。日本のほうにはいろいろなバリエーションがある; “寄らば大木の下”, “大木の下に小木育つ”, “犬になるなら大家の犬になれ” など。人に頼るなら勢力のある者に頼るほうがよいということ。

780. Llevando cada camino un grano, abastece la hormiga su granero para todo el año.

ひと粒づつ運んでいけば, 蟻は穀倉を一年分充たす

- 貯蓄と勤勉さを謳っている。“塵も積もれば山となる”, “水積もりて川と成る”, “砂 (いさご) 長じて巖となる” と同意義で, ごくわずかなものでもこつこつと積み

重ねていくと大きなものになる、少しのものでもおろそかにしてはいけない、日々精進を重ねていきなさいということをおしえている大切なことわざである。

781. Llevarán del ladrón y no del glotón.

泥棒はさらっていけ、大食らいはだめだ

- コレアス：泥棒は何か持っているかもしれないが、大食いはただ浪費するばかりで、破産状態であるから。
- 働かずに遊んで暮らしていれば、いくら財産が山のようにあってもやがてはなくなってしてしまうという戒めで、“座して食らえば山も空し”，“居て食らえば山も空し”，“遊んで食らえば山も尽きる”と同意義のことわざ。

782. Lloran los ojos de tu enemigo y enterrarte ha vivo.

涙を浮かべて 生きてまま葬る

- バロス：われわれを好いてくれない人が、とてもやさしくしてくれても、やすやすとその手にはのらないようにと警告している。
- 偽善者はこわいということ。“El gato de Marirramos halaga con la cola y araña con las manos. しっぽでじゃれつき 爪でひっかく マリラモスの猫”（筆者のスペインの諺辞典、613を参照）と同意義で、“鬼の空涙”，“鬼の空念仏”など、本当は残忍な人がうわべだけ情け深そうに見せかけることをたとえていう日本のことわざとも同じである。

783. Llorar a boca cerrada y no dar cuenta a quien no se le da nada.

口を閉じて泣きなさい 何もくれない人に気づかれないように

- バロス：不幸なことか、身内の恥じなどは出来るかぎり外にもらすべきではない、特にわれわれの苦痛には無関心な人々に対しては隠すべきである。同意義で“Quémese la casa sin que se vea el humo. 煙りが見えないように家を燃やしなさい”，“La ropa sucia se lava en casa. 汚れ物は家の中で洗う”がある。
- 一度、口から出たことはたちまち世間に知れ渡ってしまう、特に、内輪の事情など秘密にしておきたいことは、面白はんぶんの人々には決して口外してはならないという

戒め。同じような日本のことわざには、“口から出れば世間”，“吐いた唾は呑めぬ”などがある。コレアス諺集には見出しのことわざと共に，“Llorar a boca cerrada por no dar cuenta a no sabe nada. 何も知らない人に気づかれないように，口を閉じて泣く”がある。

784. Lloro (El) del que hereda : de gozo revienta.

相続者の涙は 喜びで飛び散る

- 肉親の死を本当に悲しむのは短い間で，悲しみの涙もやがては相続できるという喜びの涙に変わるという欲深な，人間の浅ましさを皮肉ったことわざ。コレアス諺集には，涙を扱った次ぎのようなことわざがいくつかある；“Llorar para descansar. 休息するために泣く”，“Llorar poco y buscar otro. 少し泣いてから誰かを探しなさい”（未亡人を慰めて言うーコレアス），“Lloro de hembra no te mueva, que lloro y risa presto lo engendra. 女の涙には動かされないように，涙と笑いはすぐに入れかわるから”すぐに泣き始めたり，笑いだしたりするのは女の特質であるということ。イリバレンの“格言の由来”には“La viuda rica, con un ojo llora y con otro repica. 金持ちの未亡人は，片目で泣き，片目で探す”（未亡人になっても金持ちなら，また，気に入った人と再婚できるので，片目で喪に服しながら，あとの片目できょろきょろあたりを見回しながら誰かいい人がいないかと探すことーイリバレン）